

京都市 平成28年 10月 決算特別委員会（第4回） 10月18日

◆委員（西山信昌）

図書館における雑誌の付録の活用についてでございます。現在、図書館の雑誌の付録等について、例えば、販売促進を目的とするバッグなどについては、資料として添付することが適当でないとして、処分をされているということでもあります。この雑誌の付録の取扱いについて、自治体によっては利用者に抽選でプレゼントされたり、図書館事業における景品として利用されたり、図書館利用の増加につながるような視点も踏まえながら活用されている所もあります。公費を投じて購入された雑誌でもありますので、活用用途がある限り、無駄なく活用する姿勢が大切であると思います。もちろん、公平、公正の観点に留意いただく必要もあると思いますが、是非雑誌の付録を有効活用できるように御検討いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

◎副市長（藤田裕之）

図書館で収納しております雑誌の付録等でございますが、市立図書館で年間約2万冊近くの雑誌を購入しております。この付録と言われるものの中には、必ず雑誌本体に内容的にも付随して活用できるものもあれば、カバンでありますとか、明らかに雑誌の本質とは異なっているというものがございまして、どのように活用するのかということにつきまして、委員からの御提案も含めまして、これから今後地域図書館、また他都市の状況も含めまして、有効な活用を検討してまいるといことで、教育委員会を考えております。

京都市 平成29年 11月 教育福祉委員会（第14回） 11月08日

◆副委員長（西山信昌）

10月15日から実施されましたブックリサイクルにおきまして、四つの中央図書館で雑誌の付録の有効活用をされたという風に見受けをしております。また、京プランの実施計画の第2ステージにおいても、この有効活用について4月から実施をするということでも載っているところがございますが、また、ホームページを見ていますと、1日で既に付録が市民の皆さんの手に渡りまして事業が終了したといったような風にも見受けしております。この辺の事業の状況についてお聞かせいただけますでしょうか。

◎教育委員会理事（宮本昌昭）

雑誌の付録の有効活用ということでございます。これにつきましては、昨年の9月市会におきまして西山先生の方から、公費で購入したものであるから有効に活用してはどうかという御提案を頂きまして、その提案を受けまして以降、私ども、各図書館で購入しております雑誌の付録につきまして、実態を調査しながらたくさんの方々に喜んでいただけるような有効な活用方法について検討を進めてきたところでございます。

そういった中で、本年度、雑誌の付録の有効活用をしようということで、先ほど御紹介いただきましたけれども、10月に四つの中央館におきまして雑誌の付録の有効活用を図ったところでございます。実際には、今年度初めからやりたいという思いはあったんですけれども、雑誌に付いております付録を一定数集めると言いますか、しなければいけないというようなことがありまして、たくさん雑誌を購入しております4中央館におきまして一定の数がそろいましたものですから、10月のブックリサイクルの時期に併せまして4中央館での雑誌の付録の有効活用を図りました。

御紹介いただきましたように、四つの中央館におきまして、朝早くから、これは、雑誌の付録目当ての方だけではないんですけれども、ブックリサイクルという取組をしておりますので、そういったものを目指しての方もおられますけれども、たくさんの方々が並ばれまして、午前中で全ての4館におきまして、用意しておりました付録がそれぞれの方々の手元に渡ったというような状況でございます。中身的には、いろんな付録があるんですけれども、有効活用を図りましたものは、例えば、ポーチとかトートバック、あるいはシールとか、しおり、便箋、こういったものを中心にそれぞれの4中央館、40点から70点程度が用意できたんですけれども、こういったものを一人1点ずつ自由に

取って帰っていただくという方式で取組を無事に終えることができましたということでございます。

◆副委員長（西山信昌）

ありがとうございます。

本当に、公費で購入した雑誌の付録についてもしっかりと活用していただいて、しかも、市民の方にも午前中には全て渡ったということで喜んでいただけたので、私も非常に嬉しい思いをしております。そういった中、例えば、出てきました課題でありますとか市民の方の声でありますとか、また、そういったことを踏まえまして、今後の事業の展開についてはいかがお考えでしょうか。

◎教育委員会理事（宮本昌昭）

今回、初めて雑誌の付録の有効活用を図ったわけですが、4中央館で実施いたしました中での課題といたしましては、それぞれの館、中央館と言いつつも広いスペースがあるわけではございませんので、そういった中で付録を展示して持って帰っていただくという形を採りましたものですから、事故は起こりませんでしたけれども、大勢の方がいつときにお越しになると危ないなという声が職員の中からも上がっておりました。そういったものも含めまして、今後は、配布の仕方も見直ししながら、また、例えば、今回は一人一つずつ持って帰っていただくという形態を取りましたけれども、例えば、図書館でのイベントとか行事をやったときの景品として提供するとか、あるいは、いろんな行事に参加していただいた方の参加賞にするとか、そういった形で提供していこうという館も今ございますので、そういったところも見ながら、今後も引き続きこの取組を継続できたらなど。お越しいただいた方には非常に御好評を頂いておりますので、継続して取り組んでまいりたいという風に考えております。

以上でございます。

◆副委員長（西山信昌）

ありがとうございます。

本当に市民の方にも喜んでいただいている取組で、また、公費で購入したものを一切無駄にしない取組ということで本当にいい取組をしていただいたと思いますので、様々、今後とも検討いただくものもあるかと思いますが、是非、より良い事業にさせていただきますようお願いしまして、私の質問を終わります。

